

答申の項目及び内容（素案）

1 小学校の適正規模に関する基本的な考え方

- ・ 児童数、学級数ともに複式学級を形成しない規模である1学年1学級以上、1学級の児童数は15人から25人程度が望ましい。
- ・ 通学は徒歩の場合、学校から半径2km圏内、時間で30分から40分が望ましい。

2 小学校の規模適正化に向けた学校統廃合の具体的な枠組み

- ・ 今後も複式学級の形成が予測される白萩西部小、陽南小については、複式学級を解消するために早期（令和8年度）に《上市中央小へ統合・両校で統合》することが望ましい。
- ・ 現状の出生数と各校舎の老朽化から、小学校だけではなく、中学校も含め、将来的に町内の小中学校を一つにまとめることが必要であり、《小中一貫教育の目的をより達成しやすい義務教育学校の創設と・小中一体型の》新校舎建設をできるだけ早期に進めることが望ましい。

3 学校統廃合に係る教育環境の整備や通学手段等に関する事項

- ・ 新校舎については、通学やまちづくりの観点からも町中心部での建設が望ましい。
- ・ 校舎建設にあたっては、町立図書館などを併設し、学校として児童生徒が利用するだけでなく、幅広く町民の利用が可能な施設とし、新しい学校を中心とした「上市に住みたくなる魅力的な学校づくり、まちづくり」を行ってほしい。
- ・ 通学については、コミュニティバス、スクールバスを活用し、子どもたちが安全で安心して学校に通えるよう取り組んでもらいたい。
- ・ 義務教育学校の制度を活かし、上市らしい魅力ある教育に取り組んでもらいたい。
- ・ 学校統合後も地域で子どもたちの顔が見られるよう、公民館等を活用した居場所づくりなどを進めてほしい。